

事業報告令和4年度 教育事業 自然体験活動指導者 (NEALリーダー)養成研修

令和4年8月27日(土)、9月3日(土)～4日(日)
【対象】18歳以上の
自然体験活動指導者志望者
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

自然体験活動の支援やプログラム実施の基礎的な指導にあたる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成し、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動を推進するために実施する。

2. 事業の概要

(1)期日 令和4年8月27日(土)、9月3日(土)～4日(日)

(2)参加者 5人

(3)講師

平野 吉直氏（信州大学 理事・副学長）

関根 健吾氏（公益財団法人キープ協会 環境教育事業部副部長）

梅津 孝一（国立信州高遠青少年自然の家 所長）

(4)日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1日目 8/27 (土)				Teams 接続 確認	調整時間 <small>9:00-9:15は電話→連絡</small>	開講式 ガイダンス 【梅津孝一】	昼食 休憩 (各自)	青少年教育における 体験活動 【梅津孝一】	休憩	自然体験活動 の安全管理 【梅津孝一】	休憩	対象者理解 【自然の家職員】	連絡 終了	※1日目はオンラインで実施		
2日目 9/3 (土)				受付	自然体験活動の特質 【平野吉直氏】	昼食 休憩	自然体験活動 の特質 【平野吉直氏】	休憩	自然体験活動 の指導 【関根健吾氏】	休憩	自然体験活動の技術 【自然の家職員】	休憩	入浴			
3日目 9/4 (日)	朝の ついで 片付け	朝食	清掃 移動	自然体験活動の技術 【関根健吾氏】	昼食 休憩	自然体験活動の安全管理 【高遠消防署 消防士】	休憩	認定試験	閉講式	解散						

3. 企画運営のポイント

- ・主に座学を通して、自然体験活動指導者認定制度の仕組みやリーダーの役割、青少年教育における自然体験活動の意義を伝える。
- ・主に実習を通して、自然体験活動指導者としての基本的な心構えや指導法、基本的な技術、安全管理について理解・習得させる。

4. 参加者の声と主な活動

- ・青少年が抱える課題について学ぶことができ、青少年教育に携わる職員の役割を見直す時間となった。（青少年教育における体験活動）
- ・フィールドにおける危険性がある動物・植物について知識が少ないため、学ぶことができてよかった。（自然体験活動の安全管理）
- ・対象者の個別的な理解の学習が特に興味深かった。対象者の何の成長を期待するのかの決め出しが、その後のプログラム作成に大きく影響するのだと思った。（対象者理解）
- ・感覚的に考えていた自然体験の効果を体系的に知る・考えることができた。（自然体験活動の特質）
- ・自然を生かしたゲームを体験できてとても楽しく、いい体験だった。施設でも取り入れたいと思った。（自然体験活動の特質）

- ・指導に当たったの留意点について理解することができた。地域の資源に基づいた教育、多様なメディアの活用など、新しい視点を学ぶことができた。（自然体験活動の指導）
- ・チョイスクッキングは初めてだったが、施設のプログラムの参考にしたい。（自然体験活動の技術）
- ・単に答えを出させるのではなく、直接体験や教材を用いて、事物や事象の背後にある意味や相互の関係を解き明かすことを目的とする教育的活動を体感できた。「その場に適した問題とは」と自分に問う時間だった。（自然体験活動の技術）

1日目の様子（オンライン）



自然体験活動の特質



自然体験活動の特質



自然体験活動の指導



自然体験活動の技術



自然体験活動の技術



自然体験活動の技術



自然体験活動の安全管理



自然体験活動の安全管理



5. 成果（○）と課題（●）

- 座学だけでなく、講師の方々の知識と経験に基づいた実習を行うことで、参加者にとってはより深い学びになったり、新たな気づきが生まれたりしたようだった。次年度以降も、講師との事前打ち合わせを丁寧に行い、講師の方々が受講者に伝えたい内容を整理することで、目的に近づく研修としていきたい。
- オンラインで1日目の研修を実施したが、日程の工夫次第では参加者の負担を減らすことにつながる事が分かった。
- 参加者数が少なかった。申し込み期間が短かったことや新型コロナウイルス感染症の感染拡大等が要因と考えられる。例年は「ボランティア養成研修を受講した法人ボランティア」に向けて募集をかけていたが、今年度は対象を広げ、「18歳以上の方」として、法人ボランティアに募集をかけたり、公民館や各市町村の教育委員会にチラシの配布を依頼したり、近隣の青少年教育施設に募集をかけたりしたが、結果として参加者が少なかったことから、広報の方法そのものにも問題があったともいえる。次年度は、一般の方が参加しやすいように、広報期間や申込期間を十分に取ったり、ボランティア養成研修と抱き合わせることでボランティアが参加しやすいようにしたりして、多くの方に参加していただけるようにしたい。